

富士市新環境クリーンセンター 循環啓発棟 「ふじさんエコトピア」

富士市 新環境クリーンセンター 主幹
富士市 環境部 廃棄物対策課 主幹

いながわ まさふみ
稲川 雅文
すずき こうじ
鈴木 浩二

富士市新環境クリーンセンターは、富士山南麓に位置する富士市内の可燃ごみ、剪定枝等を処理する施設です。敷地内には、ごみ処理を行う工場棟、市民の皆様が直接持ち込んだごみを一時的に保管する資源回収棟、環境学習や熱利用を体験できる循環啓発棟、憩いや学習の場である野外ゾーンなどが整備され、地域に多様な価値を提供しています。

ここでは、循環啓発棟内にある環境学習施設「ふじさんエコトピア」での市民活動等を中心にご紹介をいたします。

施設の概要

循環啓発棟内(写真1)にあるふじさんエコトピアは、楽しみながら3Rや環境について学べる施設です。余熱利用体験施設ふじかぐやの湯と一体的に整備され、2020(令和2)年10月に開館しました。

内部は、明るく採光の良い空間が広がり、ごみの分別や減量等を学べる展示コーナー、家具の修理再生を行う修理工房、展示室を備えています。ふじかぐやの湯では、ジェットバス、露天風呂、檜風呂、サウナ等を楽しめるほか、地場産品を使ったメニューがあるレストラン、休憩もできる大広間等を備えています。

さらに、屋外には富士市の森林や水辺に見られる自然環境を観察できる「森林環境創造ゾーン」、遊具やあずまやを備え、



写真1 循環啓発棟と駐車場

地域の憩いの場となっている「屋外啓発ゾーン」があります。

地域のための施設計画と運営

新環境クリーンセンターの最大の特長は、施設整備基本計画の策定段階で行政と地域住民が長い年月をかけて協議を重ねてきたことです。このことが施設運営の基盤となり、今では、ふじさんエコトピアを拠点として市民団体等の活動が活発に行われています。

ごみ処理施設の運営管理は、川崎重工業(株)・シンキ特定共同企業体により行われており、循環啓発棟の運営管理は、指定管理者制度を利用して(株)クリーン工房により行われております。事業主体である行政を含め、3者連携のもと、地域のための施設を目指しています。

つぎに具体的な運営の状況をご紹介します。

熱利用を体験するふじかぐやの湯

ふじかぐやの湯は、ふじさんエコトピアと一体的な施設である利点を活かし、環境啓発にも貢献しています。たとえば、ふじさんエコトピアで体験講座に参加するとエコ割で入浴できます。2020

(令和2)年度は21,482人(半年間)、2021(令和3)年度は57,179人にご利用いただきました。

ボランティア制度による工場見学

見学ルートには、迫力ある機械設備、展望デッキから見渡せる富士山から駿河湾までの眺望、興味を引く学習展示等があり、見学者を飽きさせないよう工夫されています。2021(令和3)年度は2,685人が見学ツアーに参加しました。見学案内は、指定管理者と市民ボランティアが行なっています。指定管理者主催のボランティア養成講座に参加するとボランティアの資格を得ることができます。

市民が主役の講座・イベント(写真2)

「市民が主役」、「市民から市民に伝える」という2つの考え方のもと、指定管理者と市民団体等の共催によるさまざまな講座が開催されています。中でも、裂き織体験、着物のリユース、紙漉きワークショップ、自然観察会は、開館当初から人気です。

指定管理者と市民団体との意見交換会は、2か月に1回程度開催し、施設での活動計画に反映しています。



写真2 ふじエコフェスタの様子

変化のある展示スペース

ごみ分別に関する疑問を知ることができる分別事典展示、すごろくやパズル等、ゲームで学べるコーナー、だれでも楽しめるブックコーナー等の設備が充実しています。市民団体のご協力による作品も展示されています。

3R活動でごみ減量

ごみとして持ち込まれた家具のうち修理再生ができそうなものを譲っていただき再生販売しています。

また、市民団体が取り組んでいたリユース食器の貸出しを、指定管理者が引継ぎ取り組んでいます。市内で開催されるイベントでのご利用を推進しています。

屋外ゾーンにある生ごみたい肥の畑(写真3)では、市民団体の協力のもと、レストランの生ごみを活用したたい肥で野菜を栽培しています。



写真3 生ごみたい肥の畑

災害時に役立つ施設として

循環啓発棟は、高齢者や障害者など、特別な配慮を必要とする人を対象とした福祉避難所に指定されています。災害復興時には、市民生活を支援するため、ふじかぐやの湯の開放や、携帯電話の充電スポットを確保する計画としています。